



**本気・全力で取り組んだブ
 レンデッド授業**

6年 山森 瑚々菜さん

12月ごろに、外国語で日本の学校給食を外国の方に紹介するという授業がありました。その授業では、セリフやスライド、ジェスチャーなど発表のほぼすべてを自分たちで考え、さらに暗記もして臨まなければなりませんでした。わたしは、比較的英語が得意な方だったので、チームの人から少し期待されていました。そのことから、最初の方は「うまくできるかな」、「どうしたらいいんだろう」と不安を感じました。そこで、不安を払拭するため、チームの人と協力してたくさん練習をしました。その中で、セリフを間違えることやスライドのタイミングが合わないなど、困ったことも出てきました。しかし、発表ができるようになってから、私は自信が付き、本番に向けてよりたくさん練習しました。そしてついに本番を迎え、A・L・Tの先生とオンラインで学校給食についての発表をしました。本番はスライドを相手側に共有して発表を

は、あまり共有をしたことがなかったのですが、最初は共有をする際に少し手間取ってしまいました。が、やっていくうちに慣れていきました。A・L・Tの先生と話すのはとても楽しく、よい経験になりました。この経験を大切にして、これからも英語の学習を努力していきたいです。



市長コラム
「価値ある未来を、共に」



政策室
 問合せ ☎982-5112 FAX 981-5392

吉川産の農産物と給食
 ▼皆さんは「全国ねぎサミット」をご存じですか？「全国ねぎサミット」とは、全国の主要なねぎ産地が集い、安心安全な国産ねぎの消費拡大を目指して、地元ねぎをPRするイベントで、平成22年に深谷市で初めて開催。その後、全国各地のねぎ産地を回って開催され、吉川市も平成28年から参加。その時に生まれたキャラクターが今や「なまりん」と並び吉川市の顔となった「吉川ねぎ夫」です▼昨年は12年ぶりに発祥地である深谷市で開催され、吉川市からもねぎ生産者さんや農協さん、そして市職員が参加しました。当日は、青森から長崎まで、全国各地から22のねぎ産地が深谷に集結し、各ブースでのねぎ販売はもちろん、各地のグルメや特産品の販売もあり、産地間の交流で情報交換をしたり、深谷市の先進的な農業の取り組み「DEP VALLEY アグリテック」を学んだり、非常に有意義な時間となりました。



ましたし、我が「吉川ねぎ」も大人気でした▼そうした、吉川産の農産物の「市外に向けたPR」と同時に、「市内に向けたPR」や「地産地消」にも力を入れており、その一つとして、今年度は1月24日から30日の「全国学校給食週間」に向けて「給食献立コンテスト」を開催し、「吉川産食材」を使用した学校給食の献立を小中学生から募集。総数476点もの応募がありました▼この日は、市長賞となった、栄小学校1年生の安藤 澄伶さんの「はちみつ入り吉川産にんじん・小松菜蒸しパン」が給食に出され、私も澄伶さんのクラスで一緒にいただきました▼白米もすべて「吉川産コシヒカリ」。吉川産の農産物の話をしながら、子供達はみな「おいしい！」と口々に。今後こういった事業を展開し、食を通じて吉川市の中に、「大きな輪・和・話」が広がるようにしてゆきたいと思えます。

